

広島東COREハイスクール・ネットワーク

別添資料4

目的

- (1) 中山間地域に所在する高等学校の生徒が、距離や場所に捉われることなく質の高い学びを享受できる体制を構築する。
- (2) 中山間地域に所在する高等学校の生徒が、地域への愛着や理解を深め、次代を担うリーダーとして活躍するための資質・能力を育成する。

県内中山間地域における
高等学校の現状

- 多様な選択科目や学校設定科目を開設することができない
- 免許外の教員や、専門でない教員が担当している授業がある
- 地元中学生が、自身のニーズに応じた教育内容を求めて都市部の高等学校へ進学している

1. 令和4年度の遠隔事業に関する取組概要

■ 試行授業の実施

配信校 福山誠之館高等学校

受信校 油木高等学校 「政治・経済」「地学基礎」

東城高等学校 「化学」, 「発展化学基礎」

日彰館高等学校 「政治・経済」, 「化学」

■ 生徒一人1台コンピュータやクラウドサービスを活用した遠隔授業を実施

■ 遠隔授業における公開授業の実施

■ 県内への成果普及のため、遠隔教育成果報告会を実施

2. 令和4年度の地元自治体等の関係機関と連携・協働する体制の構築に関する取組概要

■ 各学校が地元企業や市役所等の関係機関等と連携し、生徒の探究活動等を推進

■ 生徒実行委員会を組織し、学校間交流や新潟県の生徒との交流を実施

■ 指定校4校における探究的な活動の合同発表会の実施

成果と課題

指 標	実績値	目標値
学びの基礎診断等により把握する生徒の学力の定着・向上の状況	16.9%	20%
地域課題の解決等の探究的な学びに関する科目等の数	9	6
遠隔教育システムを活用して実施した教育活動に対する満足度	82.4%	90%
入学者の地元率	58.4%	63%
地元への愛着や理解を深めている生徒の割合	45.6%	50%
次代を担うリーダーとして活躍するための資質・能力の育成	91.7%	46%

※成果指標の一部を抜粋

【成果】

- 生徒一人1台コンピュータ及びクラウドサービスを活用することにより、グループ学習における生徒の取組状況を把握できた。
- 学校を超えた合同発表会を通じて、生徒がやりがいや満足感をもつなど、各学校の探究活動を充実させることができた。

【課題】

- 遠隔授業において、個々の生徒の状況を見取る方法についての研究を進める必要がある。
- 遠隔授業やコンソーシアムでの取組について、好事例を更に普及させていく必要がある。